

origin of co-existence of two phases in chromosome number.

The author wishes to express his cordial thanks to Prof. H. Ito, Tokyo University of Education, for his valuable advice and for identification of the materials. The author is also grateful to Mr. O. Wakaba for his kindness throughout the collection of the materials in Owase.

Literature cited

- 1) Ito, H. (1939) Polypodiaceae-Dryopteridoideae 1 in Nakai et Honda: Nova Flora Japonica no. 4 2) Kurita, S. (1961) Bot. Mag. Tokyo, **74**: 395-401. 3) — (1962) Journ. Coll. Chiba Univ. **3**: 463-468. 4) — (1966) Journ. Jap. Bot. **41**: 173-180. 5) Hirabayashi, H. (1966) Journ. Jap. Bot. **41**: 11-13. 6) Mitui, K. (1966) Journ. Jap. Bot. **41**: 60-64. 7) Manton, I. (1950) Problems of cytology and evolution in the Pteridophyta. Cambridge Univ. Press.

* * * *

オシダ属のイタチベニ節（伊藤, 1939）に属する 12 種について染色体数を調べた。これらのうち、8 種までが $n=123$ を示した。すなわち、ベニシダ、トウゴクシダ、オオベニシダ、サイコクベニシダ、マルバベニシダ、ナチクジャクおよびヤマイタチシダである。他の 4 種では、イワイタチシダが $n=41$ の二倍体、ギフベニシダが $n=82$ の四倍体、ヌカイタチシダモドキとイタチシダモドキとはいずれも $n=82$ (胞子形成数からみて、おそらくは無配生殖をする二倍体であろう) であった。

なお、 $n=123$ を持つ種では、どの種にも、同一胞子囊群内で、 $n=123$ をもつ三倍性の胞子母細胞の他に、時に、 $n=82$ をもつ二倍性の母細胞が見出された。これら染色体数の 2 型の由来と意義については、さらに研究が必要である。ただ、これらの種は、いずれも、1 個の胞子囊中に 32 個の胞子をつくることから推して、無配生殖を営むと思われるが、このことと関連づけると、少なくともオシダ属では、2 型の存在は無配生殖を示唆するものと考えられる。

○コカナダモの学名 (水島正美) Masami MIZUSHIMA: On the scientific name of "ko-kanada-mo"

本誌 40巻 57~64 頁に生嶋・蒲谷両氏が *Elodea* の一種をコカナダモと新称され、*E. occidentalis* (Pursh) St. John (1920) の学名を当てられた。St. John 氏の Monograph of the genus *Elodea* Part I (1962) によれば、この名は *E. Nuttallii* (Planch.) St. John (1920) と改めねばならない。理由を細かく述べるのは煩雑なだけなので止めるが、*Elodea* 全種の基準標本を精検した結果、1920 年設定の名の適用が誤りであることが分ったのであった。今後コカナダモの学名を引用する時は訂正したもの用いられたい。

(東京都立大学牧野標本館)